

# まちの名に歴史あり

問い合わせ 社会教育課文化財係  
(TEL 893・8111)

ぼうりょう 元々は「坊領」という漢字だったと思われ  
**坊龍** ます。坊領とは寺院などの荘園のことで、全国に地名として残っています。坊龍も室町時代に石清水八幡宮の荘園であった可能性が高い土地です。

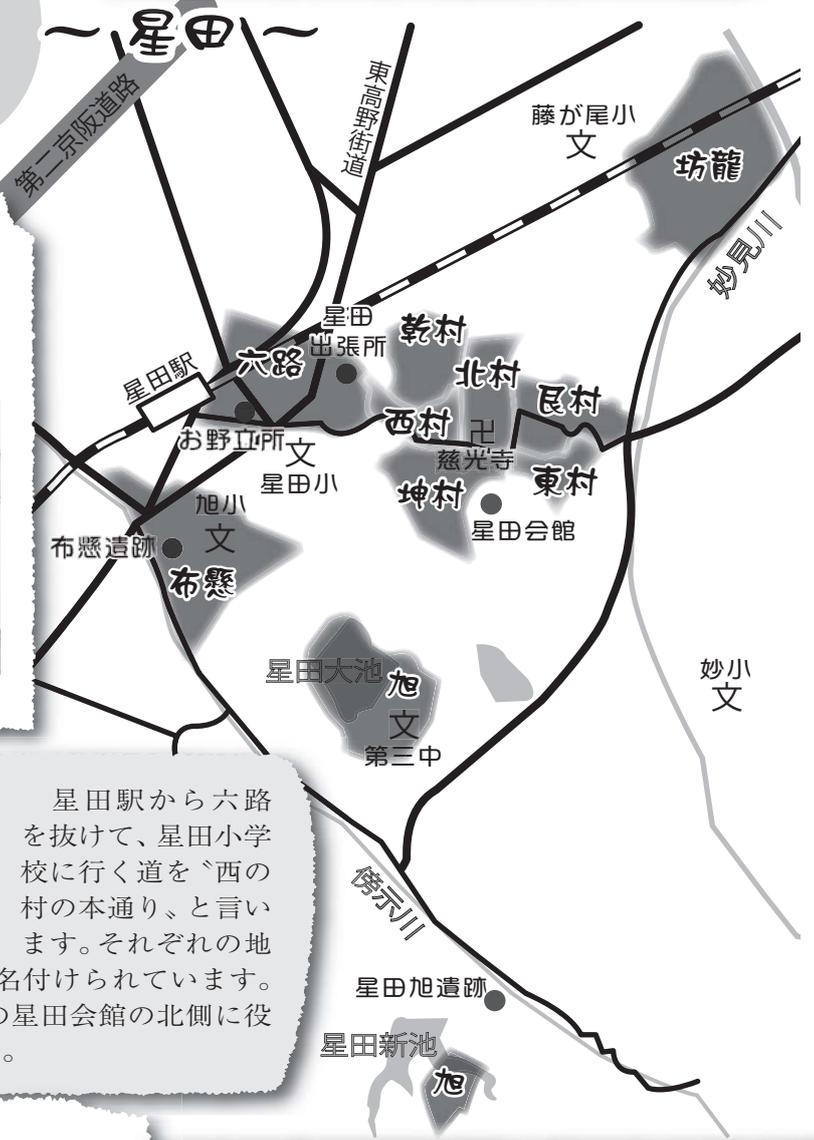
現在、南側は団地ですが、妙見川と天野川が合流する付近にあり、水田に適した土地でした。

ろくろ 六路は、道路が分かれる分岐点を意味していると考えられます。ここは東高野街道を中心として、星田・寝屋・高田などへ入る道と寝屋川に続く山根街道への分岐点となっています。

また、ここには「お野立所」の碑があります。これは大正3年11月16日の陸軍特別大演習が行われた際に、大正天皇が行幸されたことを記念したものです。



お野立所の記念碑



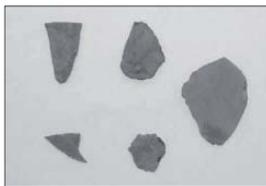
ひがしむら きたむら にしむら  
**東村・北村・西村・**  
うしとらむら いぬいむら ひつじさるむら  
**良村・乾村・坤村**

星田駅から六路を抜けて、星田小学校に行く道を「西の村の本通り」と言います。それぞれの地名は星田村の中心集落にあたり、方角から名付けられています。これら地名の中心は慈光寺付近です。現在の星田会館の北側に役場があり、村の政治の中心となっていました。

星田大池の西にある小高い丘の下から、旭小学校・大谷橋にかけての平らな場所です。傍示川の自然堤防の東側にあるため、水田に適した土地でした。

のうかけ **布懸** ある小高い丘の下から、旭小学校・大谷橋にかけての平らな場所です。傍示川の自然堤防の東側にあるため、水田に適した土地でした。

昭和54年に、旭小学校の南側から、数mの範囲内で、10cmほどの深さから旧石器時代の石器128点が集中して発見されました。



布懸遺跡試掘の様子(上)と、出土した石器(下)

あさひ 星田大池と第三中学校すべてを含む地域  
**旭** を旭と言います。

また、傍示川の上流の星田新池付近にも旭という地名があり、星田旭遺跡からは縄文時代の遺物も出土しています。



星田旭遺跡出土遺物

これらのことから、傍示川に沿って、縄文時代の人々が集落を作り、狩猟採集生活をしていたことが分かります。